

フランクフルト日本人国際学校・音楽科通信

♪ ぽこ あ ぽこ ♪

♪ 2023年度 *poco a poco* ♪

Nr. 6 2023年6月5日(月)

文責:プファイル・辰巳

運動会、お疲れ様でした!

2023年度の運動会では、さわやかに晴れわたった空の下、全力で走ったり演技をしたり、力いっぱい応援もした、みなさんの姿が輝いていました。練習の段階から毎日、がんばっていましたね。小学生は小学生なりに、中学生は中学生らしく、みんなそれぞれにこの運動会を通して、心も身体も一回り成長したと思います。特に高学年のみなさんは、応援団やそれぞれの係活動の場でも大活躍でした。さまざまな仕事も快く引き受け、テキパキとこなしてくれるみなさんは、とても頼もしかったです。これを踏み台として、次のステップへとつなげていってほしいものです。



<音楽こぼれ話 音楽の中で活躍する動物たち ④ 象さん >

体は大きくて強そうなのに、何故か優しい感じのする「象さん」。「象」をテーマにした歌曲やクラシック音楽も、そんなイメージを表している曲が多いように思います。

アメリカの作曲家ヘンリー・マンシーニの曲に「子象の行進」という曲があります。日本のブラスバンドでよく演奏される曲であり、昔の音楽の教科書にも掲載されていました。お母さん象の周りをトコトコついて回るちょっとユーモラスな子象の姿が思い浮かぶような作品です。ちなみにマンシーニは映画音楽作曲家の巨匠で、「ティファニーで朝食を」「ピンクパンサー」「刑事コロンボ」「トムとジェリーの大冒険」など数多くの作品を作曲し、グラミー賞やアカデミー賞なども獲得しています。

日本の作曲家中田喜直の作品「子どものための8つの歌」の中には「うれしい象さん」という曲があります。冒頭の歌詞は「うふふふ うふふふ」。作詞者(安藤徇之介)には、象の目が笑っているように見えたようです。笑い声で始まる歌曲も、初めてコンサートで聞いたときはインパクトがありましたが、象の表情を的確に捉えて詩にした作詞家の目にも感嘆しました。そしてこの歌曲は、冒頭の歌い方によってずいぶん

と雰囲気が変化するため、声楽家の力量も問われる作品です。

サン・サーンスの「動物の謝肉祭」にも象が登場します。

この曲では普段、縁の下の力持ちとして低音を受け持つヴァイオリン族の大物「コントラバス」が、主旋律を演奏することが多いです。または管楽器の大物「チューバ」が演奏することもあります。どちらも低音の柔らかくて重みのある響きを持つ楽器で、やはり象さんのイメージにピッタリなのでしょうね。



その他にもドビュッシーの「子どもの領分」という組曲の中に「象の子守歌」という曲もあります。体は大きくても優しくそうで、ちょっぴりユーモラスな感じのする象さんは動物園でも子どもたちの人気者ですものね。

ちょっとだけ 演奏会情報

夏のフェスティバル紹介 ②

~ Brüder Grimm Festspiele ~

2023年5月12日~7月30日まで

フリップスルーへ城の野外劇場にて

フランクフルトの隣町ハーナウはグリム兄弟の生まれ故郷です。毎年夏にそのグリム兄弟の作品が、様々な形で上演されます。演劇として上演される作品もあれば、ミュージカルとして上演される作品もあります。

今年のミュージカル演目は「灰かぶり姫 (Aschenputtel、シンデレラ姫)」。ファミリー向け音楽劇は今年初演の「うさぎとハリネズミ」。演劇としては「しあわせハンス (Hans im Glück)」などが上演されています。

5月から7月末までの週末の午後や夜に、日替わりのプログラムが上演されます。詳しい日程やチケットは、下記サイト等でご確認ください。

www.festspiele-hanau.de

www.frankfurtticket.de

Ticket-Hotline: 069 1340400

